

令和6年度「ストップいじめ なら子どもサミット」

奈良市教育委員会事務局
いじめ防止生徒指導課

令和6年1月9日（火）午後1時30分より、令和5年度「ストップいじめ なら子どもサミット」をオンラインにて開催しました。7回目の開催となる今年度は、「いじめをなくすためにできること～私たちの未来へ～」をテーマとし、平成28年度第1回開催時に参加生徒によって作成された、「ストップいじめ3ヶ条」の改定を行いました。改定にあたり、全市立学校から意見を提出してもらい、参加校が改定案を作成しました。事前ワーキングを経て実施したサミット本番では、各校の改定案を共有し、新たな「ストップいじめ3ヶ条」を作成するために協議を行いました。

○開会の挨拶と激励のメッセージ

はじめに、青和小学校の代表児童が「このサミットに初めて参加するので色々な人と意見を交流し、考えを深め、いじめをなくしていくためにみんなで協力していきたいです。

このサミットに参加する小学生、中学生、高校生、全員『いじめをなくしていきたい』という目標は同じです。この目標に向かって意見を伝え合い、聞き合い、全力で頑張るので宜しくお願いします。



今回のテーマは、『いじめをなくすためにできること～私たちの未来へ～』です。今回のサミットでは、第1回開催時に作成された『ストップいじめ3ヶ条』の改定を行います。今回のサミットは新しい『ストップいじめ3ヶ条』を考えるというとても大きな課題です。みんなで協力して、意見を交流し、子どもから大人まですべての人がいじめという問題に向き合い、『いじめをなくそう』と考え、実践できるような『ストップいじめ3ヶ条』を作ることができればいいなと思います。

このサミットを通して、いじめに遭う遭わない関係なく、みんなで『いじめとは何か』を考えて奈良市の小学生、中学生、高校生全員が安心して学校生活を送ることができるように頑張っていきたいと思います。」などと伝えてくれました。

次に、仲川げん奈良市長より、「みなさんはこれから何年かすると大人になり社会に出て行くことになると思います。そのときに、『自分がこうしたい』ということ自分の中だけで完結させるのではなく、みんなと一緒に議論をしたり、対話をするということ、またその中で正解はないけれど、物事を決めていかなければ前に進まないの、みんなの最大公約数を何とか探して、誰かが責任を持って『自分がするぞ』という決断をしないと



○奈良市立一条高等学校・附属中学校 伊東 幹子 校長先生からの講評

最後に奈良市立一条高等学校・附属中学校 伊東 幹子 校長先生から講評をいただきました。

「みなさんの話し合いの様子を見させていただいて、みなさんの表情がとても豊かで真剣にこのテーマについて考えてくれているという姿が印象的でした。みなさんが『いじめをなくす』、『いじめをなくしたい』という共通の思いで、深く考えてくれていたと思います。



次に印象に残ったのは、真剣に言葉を選んでいるという姿です。受け取る人のことをイメージしたり、それぞれの学校がどのような思いで言葉を選んだのかお互いに質問をしながら議論を重ねながら、素晴らしい『ストップいじめ3ヶ条』の改定ができたのではないかと思います。市長の挨拶に『今みなさんの感覚に合った3ヶ条を考えてほしい。』とありましたが、改定してくれたものはまさに今みなさんの感覚に合ったものになったのではないかと思います。

また、話し合いという枠を超えて、みなさんの議論する力、質問する力が発揮されていました。小学生が中学生や高校生に言葉の意味を質問し、その答えを中学生、高校生が真摯に答えて、しっかりと考え、受け取りやすい3ヶ条になったと思います。

今回のサミットでは、『ストップいじめ3ヶ条』の改定に辿り着きましたが、これで終わりではありません。この続きがとても大切です。新しいスタートラインに立ったということです。今、みなさんが議論したこの情熱、熱さをいかにみなさんの仲間に伝えていくかが、このサミットの続きになります。人にメッセージを伝えるときには、相手が受け取りやすい形にすることが大切です。思いを形作るとは言葉で表されます。みなさんが今、紡いだメッセージは素晴らしい言葉でまとめられましたので、きっと仲間にも届くと思います。人に対してだけでなく、自分に対してもこのメッセージが響いているからこそ、3ヶ条の改定ができたのではないかと思います。改めて、ここからがスタートになります。次にみなさんにがんばってほしいことは、どのように改定した『ストップいじめ3ヶ条』を奈良市の小学生、中学生、高校生に広めていくかです。」とお話をいただきました。

○終わりに

閉会にあたり、一条高等学校・附属中学校の代表生徒が挨拶をしてくれました。

『「いじめをなくすためにできること～私たちの未来へ～」というテーマのもと、普段はあまり交流がない、小学校・中学校・高等学校の代表児童生徒が話し合いを行い、新たな学び・経験を得ることができた、大変貴重な機会になりました。



市立学校の児童生徒の意見を基にして改定できたことは、『いじめを許さない学校づくり』というサミットの重要な目的達成のための大きな一歩になるのではないかと思います。今日、改定した『ストップいじめ3ヶ条』をまずは、自分たちの学校に伝えること、次に保護者や地域の方々に伝えること、そして今日、参加していない学校にも伝え、私たち自身と保護者、地域の方々と協働し、奈良市

が丸となって、『いじめを許さない学校づくり』を目指すために様々な取組や活動を積極的に行っていきましょう。」と決意を語ってくれました。

今年度も小学校、中学校、高等学校の児童生徒が参加し、異校種間での意見交流ができました。児童生徒たちはそれぞれの立場から積極的に意見発表を行い、いじめをなくすために真剣に考えてくれたと思います。サミットで話し合ったことや学んだこと、意見交流で考えたことなどをもとに、各校で中心となって改定してくれた『ストップいじめ3ヶ条』を各校の児童生徒や保護者、地域の方々に周知し、自分たちの学校に合った取組や活動を進めてくれることを期待しています。